



## 電話の管理

---

- [電話管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [電話ボタン テンプレート \(1 ページ\)](#)
- [電話機管理タスク \(2 ページ\)](#)

### 電話管理の概要

この章では、ネットワーク内の電話を管理する方法について説明します。このトピックでは、新しい電話の追加、既存の電話の別のユーザへの移動、電話のロック、電話のリセットなどのタスクについて説明します。

ご使用の電話機モデルの『Cisco IP Phone Administration Guide』には、該当する電話機モデルに固有の設定情報が記載されています。

### 電話ボタン テンプレート

電話ボタン テンプレートは、電話機モデルに基づいて作成されます。一部の電話機モデルでは、特定の電話ボタン テンプレートを使用しませんが、一部電話機モデルには、個々のテンプレートまたはデバイスのデフォルトテンプレートのいずれかの特定されたテンプレートが必要です。

[エンタープライズパラメータの設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページの [非サイズセーフ電話機の電話テンプレートの選択 (Phone Template Selection for Non-Size Safe Phone)] と [自動登録レガシーモード (Auto Registration Legacy Mode)] エンタープライズパラメータは、使用される電話ボタン テンプレートのタイプを指定します。フィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

表 1:さまざまなシナリオにおける電話ボタンテンプレート

非サイズセーフ電話機の電話テンプレートの選択	自動登録レガシーモード	電話
個々のテンプレートの作成	False	ユニバーサルデバイステンプレートからの電話を追加するときに、個々の電話ボタンテンプレートが作成されます。
デバイスのデフォルトからのテンプレートの使用	False	個々の電話ボタンテンプレートは作成されず、デバイスのデフォルトからの電話ボタンテンプレートを取得します。
デバイスのデフォルトからのテンプレートの使用	True	デバイスプール、電話テンプレート、コーリングサーチスペース、電話ボタンテンプレートの値は、デバイスのデフォルトから取得されます。
個々のテンプレートの作成	True	デバイスプール、電話テンプレート、コーリングサーチスペース、電話ボタンテンプレートの値は、デバイスのデフォルトから取得されます。  個々のテンプレートは作成されません。  自動登録レガシーモードには、優先度があります。

## 電話機管理タスク

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	エンドユーザの有無にかかわらず新しい電話機の追加 (4 ページ)	エンドユーザの有無にかかわらずユニバーサルデバイステンプレートからの新しい電話機の追加
ステップ 2	電話機の手動での追加 (3 ページ)	デバイステンプレートなしでのエンドユーザの新しい電話機の追加

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	エンドユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加 (6 ページ)	エンドユーザ用の新しい電話機を追加して、ユニバーサル デバイス テンプレートを割り当てます。
ステップ 4	既存の電話機の移動 (15 ページ)	設定された電話機を別のエンドユーザに移動します。
ステップ 5	現在ログイン中のデバイスの検索 (16 ページ)	特定のデバイスを検索するか、ユーザが現在ログインしているすべてのデバイスを列挙します。
ステップ 6	リモート ログイン デバイスの検索 (17 ページ)	特定のデバイスを検索するか、ユーザがリモートでログインしているすべてのデバイスを列挙します。
ステップ 7	電話機のリモート ロック (18 ページ)	一部の電話機は、リモートでロックすることができます。電話機をリモートでロックすると、ロックを解除するまで使用できなくなります。
ステップ 8	工場出荷時の初期状態への電話機のリセット (18 ページ)	電話機を工場出荷時の設定にリセットします。
ステップ 9	電話ロック/ワイプレポート (19 ページ)	リモートでロックされたデバイスまたはリモートでファクトリーデフォルト設定にリセットされたデバイスを検索します。
ステップ 10	電話の LSC ステータスの表示および CAPF レポートの生成 (20 ページ)	電話機で LSC 失効ステータスを検索し、CAPF レポートも生成します。

## 電話機の手動での追加

次の手順を実行して、ユーザ用の新しい電話機を手動で追加します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] の順に選択します。
- ステップ 2** [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] ページから [新規追加 (Add New)] をクリックして電話機を手動で追加します。
- [新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページが表示されます。

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページから、[「ここをクリックしてユニバーサルデバイス テンプレートを追加 (click here to add a new phone using a Universal Device Template) 」] ハイパーリンクをクリックすると、ページは [新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページにリダイレクトされ、ユーザの追加の有無にかかわらずテンプレートから電話を追加します。詳細については、「[エンドユーザの有無にかかわらずテンプレートからの新しい電話機の追加 \(4 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 3** [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、電話機モデルを選択します。

**ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。

[電話機の設定 (Phone Configuration)] ページが表示されます。

**ステップ 5** [電話機の設定 (Phone Configuration)] ページで、必須フィールドに値を入力します。フィールドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域のフィールドの詳細については、ご使用の電話機モデルの『*Cisco IP Phone Administration Guide*』を参照してください。

**ステップ 6** 電話の設定を保存する場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

---

### 次のタスク

[エンドユーザへの既存の電話機の移動](#)

## エンドユーザの有無にかかわらずテンプレートからの新しい電話機の追加

次の手順を実行して、ユーザを追加するかどうかにかかわらず、テンプレートから新しい電話機を追加します。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサルデバイス テンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

### 始める前に

Cisco Unified Communications Manager でユニバーサルデバイス テンプレートが設定済みであることを確認します。

### 手順

---

**ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] の順に選択します。

**ステップ 2** [電話の検索とリスト (Find and List Phones)] ページから、[テンプレートからの新規の追加 (Add New From Template)] をクリックして、エンドユーザの追加にかかわらずデバイス テンプレートからの電話を追加します。

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページが表示されます。

[新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページから、[「ここをクリックしてすべての電話設定を手動で入力する (click here to enter all phone settings manually)」] ハイパーリンクをクリックすると、ページは電話を手動で追加できる既存の [新しい電話の追加 (Add a New Phone)] ページにリダイレクトされます。詳細については、「[電話機の手動での追加 \(3 ページ\)](#)」を参照してください。

**ステップ 3** [製品タイプ (およびプロトコル) (Phone Type (and Protocol))] ドロップダウンリストで、電話機モデルを選択します。

プロトコルのドロップダウンリストは、電話が複数のプロトコルをサポートしている場合にのみ表示されます。

**ステップ 4** [名前または MAC アドレス (Name or MAC Address)] テキストボックスに、名前または MAC アドレスを入力します。

**ステップ 5** [デバイステンプレート (Device Template)] ドロップダウンリストで、ユニバーサル デバイス テンプレートを選択します。

**ステップ 6** [電話番号 (回線 1) (Directory Number (Line 1))] ドロップダウンリストで、電話番号を選択します。

ドロップダウンリストのディレクトリ番号がドロップダウンリストの上限を越えている場合、[検索 (Find)] タブが表示されます。[検索 (Find)] をクリックすると、ディレクトリ番号の検索条件を示すポップアップ ダイアログボックスが開きます。

**ステップ 7** (オプション) 新しいディレクトリ番号を作成してデバイスに割り当てる場合には、[新規 (New)] をクリックしてディレクトリ番号を入力し、ユニバーサル回線テンプレートを選択します。

[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add)] > [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick/User Phone Add)] に移動して、ユーザに関連付けられたディレクトリ番号を使用して電話を作成することもできます。

**ステップ 8** (オプション) [ユーザ (User)] ドロップダウンリストから、新しい電話機を追加するエンドユーザを選択します。

(注) Cisco デュアル モード (モバイル) デバイスのユーザを選択する場合には必須です。

ドロップダウンリストのエンドユーザの数がドロップダウンリストの上限を越えている場合、[検索 (Find)] タブが表示されます。[検索 (Find)] をクリックすると、エンドユーザ検索条件を示すポップアップ ダイアログボックスが開きます。

**ステップ 9** [Add] をクリックします。

(注) 非サイズセーフ電話機の場合、電話テンプレートは [エンタープライズパラメータの設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページの [非サイズセーフ電話機の電話テンプレートの選択 (Phone Template Selection for Non-Size Safe Phone)] と [自動登録レガシー モード (Auto Registration Legacy Mode)] パラメータの選択に基づいて作成されます。

追加が成功したとのメッセージが表示されます。Cisco Unified Communications Manager で電話機が追加され、[電話の設定 (Phone Configuration)] ページが表示されます。[電話の設定 (Phone

Configuration) ] ページのフィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

### 次のタスク

[エンドユーザへの既存の電話機の移動](#)

## エンドユーザがあるテンプレートからの新しい電話機の追加

次の手順を実行して、エンドユーザ用の新しい電話機を追加します。

### 始める前に

電話機追加対象のエンドユーザは、ユニバーサルデバイステンプレートを含むユーザプロフィールがセットアップされています。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

- [エンドユーザ管理タスク](#)

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[ユーザ管理 (User Management) ] > [ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add) ] > [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add) ] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find) ] をクリックして、新しい電話機を追加するユーザを選択します。
- ステップ 3 [デバイスの管理 (Manage Devices) ] ボタンをクリックします。  
[デバイスの管理 (Manage Devices) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [電話の新規追加 (Add New Phone) ] をクリックします。  
[ユーザに電話を追加 (Add Phone to User) ] ポップアップが表示されます。
- ステップ 5 [製品タイプ (Product Type) ] ドロップダウンリストで、電話機モデルを選択します。
- ステップ 6 [デバイスプロトコル (Device Protocol) ] ドロップダウンリストから、プロトコルとして [SIP] または [SCCP] を選択します。
- ステップ 7 [デバイス名 (DeviceName) ] テキストボックスに、デバイスの MAC アドレスを入力します。
- ステップ 8 [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template) ] ドロップダウンリストで、ユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
- ステップ 9 電話機が拡張モジュールをサポートしている場合は、展開する拡張モジュールの数を入力します。
- ステップ 10 Extension Mobility を使用して電話機にアクセスするには、[Extension Mobility 内 (In Extension Mobility) ] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11 [電話の追加 (Add Phone) ] をクリックします。

[電話の新規追加 (Add New Phone)] ポップアップが閉じます。Cisco Unified Communications Manager が、電話機をユーザに追加し、ユニバーサル デバイス テンプレートを使用してその電話機を設定します。

**ステップ 12** 電話機の設定に追加の編集を加えるには、対応する鉛筆アイコンをクリックして、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで電話機を開きます。

## コラボレーション モバイル コンバージェンス 仮想デバイスの概要

CMC デバイスは、それに関連付けられたリモート接続先を表す仮想デバイスです。エンタープライズ電話で CMC デバイスにコールすると、コールはリモート接続先にリダイレクトされます。この機能は、デバイス タイプ [Collaboration モバイル コンバージェンス (Collaboration Mobile Convergence)] を作成することを目的としています。このデバイス タイプはいくつかのカスタマイズがされた Spark リモート デバイスと同じであり、以下の利点を提供します。

- Spark リモート デバイスと同様の機能を持つネイティブ モバイル デバイスを Cisco Unified Communications Manager 上でサポートします。
- 将来の開発機能パリティを含む機能を持つ Spark-RD として利用します。
- モバイルからデスクフォン、デスクフォンからモバイルへコールの移動などの、モバイル固有のユース ケースのカスタマイズができます。(ID ページで deskpickup タイマーを追加し、製品サポート機能の設定で有効にします)。
- CMC デバイスは、ハント グループに含めることができます。
- Spark リモート デバイスで共有回線に対応できます。
- ライセンス：ライセンス使用パースペクティブに応じて個別のデバイスとしてカウントします。複数デバイス ライセンス バンドルはいずれも、CMC RD をサポートする必要があります。

### CMC RD デバイス ライセンスの調整

新しい CMC デバイスは、追加されると、ユーザに関連付けられているデバイスの数/タイプに基づいてライセンスを使用します。CMC デバイスによって使用されるライセンスのタイプは、それに関連付けられているエンド ユーザが所有するデバイスの数によって異なります。

- CMC デバイスのみを導入する場合は、拡張ライセンスを使用します。
- CMC デバイスと Spark RD を導入する場合は、拡張ライセンスを使用します。
- CMC と物理デバイス：拡張 Plus ライセンス
- CMC、Spark RD、および物理デバイスの場合：拡張 Plus ライセンス

## Collaboration モバイル コンバージェンスの仮想デバイスを追加します。

エンド ユーザ用に Cisco Collaboration モバイル コンバージェンス (CMC) リモート デバイスを追加する次の手順を実行します。

### 始める前に

電話機追加対象のエンド ユーザは、ユニバーサル デバイス テンプレートを含むユーザ プロファイルがセットアップされている必要があります。Cisco Unified Communications Manager が、ユニバーサル デバイス テンプレートの設定を使用して電話機を設定します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3 [ここをクリックしてすべての電話設定を手動で入力する (Click here to enter all phone settings manually)] リンクをクリックします。  
[新規電話を追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リストから、[Cisco Collaboration モバイル コンバージェンス (Cisco Collaboration Mobile Convergence)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。  
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5 [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] ドロップダウンから、デバイスを所有するエンド ユーザを選択します。
- ステップ 6 [デバイス プール (Device Pool)] ドロップダウンから、デバイス プールを選択します。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。  
[設定の適用 (Apply Config)] ボタンをクリックして変更を有効にすることを求める警告メッセージがポップアップします。[OK] をクリックします。デバイスは正常に追加されました。
- ステップ 8 [電話番号 (Directory Number)] を設定するには、追加された CMC デバイスをクリックし、[電話番号 (Directory Number)] を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9 追加された CMC デバイスの新しい [リモート接続先 (Remote Destination)] を追加するには、アイデンティティ ボックス内のリンクをクリックします。
- ステップ 10 [リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウで、[名前 (Name)]、[接続先の番号 (Destination number)] をクリックして、[保存 (Save)] をクリックします。  

(注) 追加された 1 つの CMC デバイスに対して、1 つだけのリモート接続先を追加できます。
- ステップ 11 既存のリモート接続先を更新するには、[新しい名前 (New Name)] をクリックして、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 12 既存のリモート接続先を削除するには、メニューで [削除 (Delete)] ボタンをクリックします。



永続的な削除を確認する Web ページからのメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

**ステップ 13** [デバイス (Device) ] ページから CMC デバイスを削除するには、[デバイス (Device) ] チェックボックスを選択し、メニューから [選択の削除 (Delete Selected) ] をクリックします。

## CMC RD 機能の相互作用

表 2: CMC RD 機能の相互作用

機能	連携動作
共有回線の処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CMC RD および Spark RD と関連付けられている共有デスクフォンがあるセットアップで、ユーザがエンタープライズ電話から CMC デバイス DN にコールすると、CMC RD、Spark RD、および共有デスクフォンの 3 つすべてが鳴りません。</li> <li>• リモート接続先のいずれかから応答すると、共有デスクフォンに「リモートで使用 (Remote in Use)」メッセージが表示されます。</li> <li>• 共有デスクフォンのいずれかから応答すると、両方のリモート接続先電話 (CMC RD と Spark RD 電話) が切断されます。</li> </ul>
Call Manager グループ (CMG) セットアップで動作する CMC デバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CMC デバイスが Call Manager グループに関連付けられている場合は、必ずプライマリ サーバで実行され、プライマリサーバがダウンした場合にのみ、Call Manager グループの次のアクティブなセカンダリサーバで実行されます。</li> <li>• プライマリサーバがコール中にダウンした場合、進行中のコールは引き続き維持され、コールが終了した後に CMC デバイスがセカンダリサーバに登録されます。 (注) コールが保持モードの場合、電話間のメディアは引き続きアクティブですが、コールの切断を除く他の操作は実行できません。</li> <li>• 最初にプライマリサーバがダウンし、CMC デバイスがセカンダリサーバに登録されているときにコールが開始され、プライマリサーバが進行中のコール中に起動した場合、コールは保持モードになり、コールの終了後に CMC デバイスがプライマリサーバに登録されます。</li> </ul>

機能	連携動作
コール アンカリング	<p>CMCデバイスからのすべての基本着信コールおよび番号からリモート接続先へのコールは、エンタープライズ ネットワークでは固定されています。</p> <p>CMCのリモートデバイスが設定されている場合、エンタープライズに固定されているすべてのコールにより、ユーザはモバイルデバイスからコールを発信および受信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザは、エンタープライズ番号から CMC リモート宛先に直接ダイヤルすることができます。コールはエンタープライズ ネットワークでは固定されています。このシナリオでは、デスクフォン（CMC デバイスの共有回線）は鳴りませんが、[リモートで使用（Remote in Use）] の状態のままになります。</li> <li>• ユーザは、CMC リモート接続先から任意のエンタープライズ番号にダイヤルできます。コールは固定されています。このシナリオでは、デスクフォン（CMC デバイスの共有回線）は鳴りませんが、[リモートで使用（Remote in Use）] の状態のままになります。</li> </ul>

機能	連携動作
シングルナンバーリーチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [リモート接続先の設定 (Remote Destination configuration) ] ページで、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach) ] チェックボックスがオフになっている場合、コールは CMC RD まで拡張されず、拒否されます。</li> <li>• リモート接続先からの着信コールと、[番号からリモート接続先へ (Number to Remote Destination) ] の発信コールは、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach) ] チェックボックスの選択に関係なく、影響を受けません。</li> <li>• CMC デバイスがある共有デスクフォンがあり、[シングルナンバーリーチを有効にする (Enable Single Number Reach) ] チェックボックスがオフになっている場合、コールは CMC RD ではなく共有デスクフォンに拡張されます。</li> </ul> <p>(注) シングルナンバーリーチボイスメールポリシーが [ユーザ制御 (user control) ] に設定されている場合、プライマリ内線番号への<b>ブラインド転送</b>が発生しても、モビリティの接続先番号はトリガーされません。プライマリ内線番号のみがトリガーされます。</p> <p>ユーザ制御設定は、相談転送をサポートしていません。タイマー制御ボイスメール回避ポリシーは、相談とブラインド転送の両方をサポートします。</p>

機能	連携動作
時刻（ToD）に基づくコールルーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リング スケジュールを設定するために、リモート接続先の [時刻（Time of Day）] 設定を使用できます（たとえば、月曜日から金曜日の 9 am ～ 5 pm などといった特定の時間を設定できます）。コールは、これらの時間にのみリモート接続先にリダイレクトされます。</li> </ul> <p>エンタープライズ電話から CMC 番号へのコールは、[リモート接続先の設定（Remote Destination configuration）] ページで修正されたリング スケジュールに基づいてルーティングされます。リング スケジュールは次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべての時間（All the Time）]：コールは常時ルーティングされます。制限はありません。</li> <li>• [曜日（Day(s) of the week）]：選択した特定の曜日にのみコールはルーティングされます。</li> <li>• [特定の時間（Specific time）]：コールは選択した就業時間内でのみルーティングされます。必ずタイムゾーンを選択します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• リング スケジュール中にコールを受信する場合、エンタープライズ電話から CMC 番号へのコールは、[リモート接続先の設定（Remote Destination configuration）] ページでアクセス許可リストまたはアクセスブロッキングリストに追加されたコール番号またはパターンに基づいてルーティングされます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [アクセス許可リスト（Allowed access list）]：発信者番号またはパターンがアクセス許可リスト内にある場合にのみ接続先が鳴ります。</li> <li>• [アクセスブロッキングリスト（Blocked access list）]：発信者番号またはパターンがアクセスブロッキングリスト内にある場合には接続先は鳴りません。</li> </ul> <p>(注) 任意の時点で、アクセス許可リストまたはアクセスブロッキングリストのみを使用できます。</p>

機能	連携動作
ユーザ ロケールの設定	<p>CMC 仮想デバイスでは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで設定されているロケール設定を使用して、電話のディスプレイと電話アナウンスのロケールを判断します。このポリシーは、通常のコールと Conference Now 番号に適用されます。</p> <p>アナウンスの部分は、[ユーザ ロケール (User Locale)] の設定で同じ言語が選択された発信側 (任意のエンタープライズ電話) および着信側 (CMC デバイス) 電話では、発信側とリモート接続先の両方のアナウンスは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ページで選択された [ユーザ ロケール (User Locale)] 設定に基づくものになります。</p> <p>(注)       たとえば、CMC デバイスに関連付けられている [リモート接続先 (Remote Destination)] から [Conference Now 番号 (Conference Now 番号)] に発信するとき、アナウンスは CMC デバイスの [電話の設定 (Phone configuration)] ページで選択されている [ユーザ ロケール (User Locale)] の設定に基づくものになります。</p>
HLogin および HLogout の新しいアクセス コード	<p>この機能は、管理者が追加のサービス パラメータを使用して、CMC デバイスのハントグループのログインおよびログアウト数を設定するために役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハントグループログインのためのエンタープライズ機能アクセス番号。</li> <li>• ハントグループログアウトのためのエンタープライズ機能アクセス番号。</li> </ul> <p>ユーザが CMC デバイスに関連付けられている RD から Hlogin 番号を入力すると、そのときに限りコールは CMC デバイスに関連付けられているハントパイロット番号のダイヤル時に RD にリダイレクトされます。</p> <p>ユーザが CMC デバイスに関連付けられている RD から Hlogout 番号を入力すると、コールは CMC デバイスに関連付けられているハントパイロット番号のダイヤル時に RD にリダイレクトされません。</p> <p>デフォルトでは、CMC デバイスは Hloggedin です。いずれの場合でも、CMC デバイスへの直接コールには影響はありません。</p>

機能	連携動作
<p>データベースに設定された [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer) ] に基づく CMC リモート接続先コールエクステンション</p>	<p><b>DB の [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer) ] が 5000 に設定されている場合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が鳴り、コールは5秒後にリモート接続先に到達します。</li> <li>• エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が 5 秒前にコールに応答すると、コールはリモート接続先に拡張されません。</li> <li>• エンタープライズ電話から CMC 番号に発信する場合、共有回線が鳴り、発信側が 5 秒前にコールを切断すると、コールはリモート接続先に拡張されません。</li> </ul> <p><b>DB の [呼び出し前の遅延タイマー (Delay Before Ringing Timer) ] が 0 に設定されている場合</b></p> <p>エンタープライズ電話から CMC 番号へのすべてのコールは、リモート接続先と共有回線に同時にアラートを出します。</p>
<p>一括管理ツール (BAT) サポート</p>	<p>BAT サポートは CMC デバイス向けに提供されています</p>

## CMC RD 機能の制約事項

表 3: CMC RD 機能の制約事項

機能	制約事項
CMC リモート接続先の関連付け	<p>次の制約事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CMC デバイスには、1 つのリモート接続先のみを関連付けることができます。</li> <li>• エンドユーザが削除されると、その関連付けられている CMC デバイスおよび RD (リモート接続先) も削除されます。</li> </ul> <p>(注) [モビリティの有効化 (Enable Mobility) ]チェックボックスがオンまたはオフになっていても、CMC および RD は影響を受けません。CMC デバイスは削除されません。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager は、CMC デバイスのコールハンドルの保存をサポートしていません。</p>

## 既存の電話機の移動

次の手順を実行して、設定された電話機をエンドユーザに移動します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management) ]>[ユーザ/電話の追加 (User/Phone Add) ]>[ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add) ]を選択します。
  - ステップ 2** [検索 (Find) ]をクリックして、既存の電話機を移動するユーザを選択します。
  - ステップ 3** [デバイスの管理 (Manage Devices) ] ボタンをクリックします。
  - ステップ 4** [このユーザに移動する電話の検索 (Find a Phone to Move To This User) ] ボタンをクリックします。
  - ステップ 5** このユーザに移動する電話機を選択します。
  - ステップ 6** [選択項目の移動 (Move Selected) ] をクリックします。
-

## 現在ログイン中のデバイスの検索

Cisco Extension Mobility 機能と Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能により、ユーザが現在ログインしているデバイスの記録が維持されます。Cisco Extension Mobility 機能では、現在ログイン中のデバイスのレポートでローカルユーザが現在ログインしているローカル電話が追跡され、Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能では、現在ログイン中のデバイスのレポートでリモートユーザが現在ログインしているローカル電話が追跡されます。

Unified Communications Manager には、ユーザがログインしているデバイスを検索するための特定の検索ウィンドウがあります。特定のデバイスを検索する場合、またはユーザが現在ログインしているすべてのデバイスを一覧表示する場合は、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

**ステップ 2** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [現在ログイン中のデバイスのレポート (Actively Logged In Device Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

**ステップ 3** 現在ログイン中のすべてのデバイスレコードをデータベースで検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、ステップ 4 に進みます。

レコードをフィルタまたは検索するには、次の手順を実行します。

- 最初のドロップダウンリストで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-] ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

**ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストで別の値を選択します。

**ステップ 5** 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) ソート順を反転させるには、リスト見出しの上矢印または下矢印が使用可能であればそれをクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。



## リモートログインデバイスの検索

Cisco Extension Mobility Cross Cluster 機能は、ユーザがリモートログインしているデバイスのレコードを保持します。リモートログインデバイス レポートによって追跡される電話機は、他のクラスタが所有しており、かつ EMCC 機能を使用するローカルユーザが現在ログインしているものとなります。

Unified Communications Manager には、ユーザがリモートログインしているデバイスを検索するための特定の検索ウィンドウがあります。次の手順に従って、特定のデバイスを検索したり、ユーザがリモートでログインしているすべてのデバイスを列挙したりします。

### 手順

**ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

**ステップ 2** 右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [リモートログインデバイス (Remotely Logged In Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

**ステップ 3** データベース内のすべてのリモートログインデバイスのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、ステップ 4 に進みます。

レコードをフィルタまたは検索するには、次の手順を実行します。

- a) 最初のドロップダウンリストで、検索パラメータを選択します。
- b) 2 番目のドロップダウンリストで、検索パターンを選択します。
- c) 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-] ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

**ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストで別の値を選択します。

**ステップ 5** 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) ソート順を反転させるには、リスト見出しの上矢印または下矢印が使用可能であればそれをクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

## 電話機のリモートロック

一部の電話機は、リモートでロックすることができます。電話機をリモートでロックすると、ロックを解除するまで使用できなくなります。

電話機でリモートロック機能がサポートされている場合は、右上の隅に[ロック (Lock)]ボタンが表示されます。

### 手順

**ステップ1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

**ステップ2** [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして特定の電話機を見つけます。

検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ3** リモートロックを実行する電話機を選択します。

**ステップ4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで[ロック (Lock)] をクリックします。

電話機が登録されていない場合は、電話機が次回登録されたときにロックされることを伝えるポップアップウィンドウが表示されます。[ロック (Lock)] をクリックします。

[デバイスのロック/ワイプのステータス (Device Lock/Wipe Status)] セクションが表示され、最新の要求、保留中かどうか、および最新の確認応答に関する情報が示されます。

## 工場出荷時の初期状態への電話機のリセット

一部の電話機では、リモートワイプ機能がサポートされます。リモートで電話機をワイプすると、電話機が工場出荷時の設定にリセットされます。電話機に以前に保存されたすべてのデータが消去されます。

電話機でリモートワイプ機能がサポートされている場合は、右上の隅に[ワイプ (Wipe)]ボタンが表示されます。



**注意** この操作は取り消すことができません。この操作は、確実に電話機を工場出荷時の設定にリセットする必要がある場合にのみ、実行してください。

### 手順

**ステップ1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

**ステップ2** [電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして特定の電話機を見つけます。

検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ3** リモートワイプを実行する電話機を選択します。

**ステップ4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで[ワイプ (Wipe)] をクリックします。

電話機が登録されていない場合は、電話機が次回登録されたときにワイプされることを伝えるポップアップウィンドウが表示されます。[ワイプ (Wipe)] をクリックします。

[デバイスのロック/ワイプのステータス (Device Lock/Wipe Status)] セクションが表示され、最新の要求、保留中かどうか、および最新の確認応答に関する情報が示されます。

## 電話ロック/ワイプレポート

Unified Communications Manager には、リモートでロックまたはリモートでワイプされたデバイスを検索するための特定の検索ウィンドウがあります。次の手順に従って、特定のデバイスを検索したり、リモートでロックされたまたはリモートでワイプされたすべてのデバイスを列挙したりします。

### 手順

**ステップ1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブな (以前の) クエリーのレコードも表示されることがあります。

**ステップ2** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [電話のロック/ワイプレポート (Phone Lock/Wipe Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

**ステップ3** データベース内のリモートでロックされたデバイスまたはリモートでワイプされたデバイスのすべてのレコードを検索するには、テキストボックスが空であることを確認して、ステップ4に進みます。

特定のデバイスのレコードを絞り込むまたは検索するには：

- 1つ目のドロップダウンリストで、検索するデバイス稼働タイプを選択します。
- 2番目のドロップダウンリストで、検索パラメータを選択します。
- 3番目のドロップダウンリストで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除する場合、最後に追加した条件を削除するには、[-] ボタンをクリックします。追加した検索条件をすべて削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

**ステップ4** [検索 (Find)] をクリックします。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストで別の値を選択します。

**ステップ 5** 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) ソート順を反転させるには、リスト見出しの上矢印または下矢印が使用可能であればそれをクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

---

## 電話の LSC ステータスの表示および CAPF レポートの生成

この手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager インタフェース内からローカルで有効な証明書 (LSC) の有効期限情報を監視します。次の検索フィルタは、LSC 情報を表示します。

- [LSC 有効期日 (LSC Expires)] : 電話の LSC 有効期日を表示します。
- [LSC 発行元 (LSC Issued By)] : 発行元の名前を表示します。これは、CAPF またはサードパーティのいずれかです。
- [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires By)] : 発行元の有効期日を表示します。



(注) 新しいデバイスに LSC が発行されていない場合、[LSC 有効期日 (LSC Expires)] および [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは [該当なし (NA)] 「」に設定されます。

Cisco Unified Communications Manager 11.5(1) へのアップグレード前に LSC がデバイスに発行された場合は、[LSC 有効期日 (LSC Expires)] および [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは [不明 (Unknown)] 「」に設定されます。

---

### 手順

**ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

**ステップ 2** [電話の検索条件 (Find Phone where)] の最初のドロップダウンリストから、次の基準の 1 つを選択します。

- LSC 有効期日 (LSC Expires)
- LSC 発行元 (LSC Issued By)
- LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)

[電話の検索条件 (Find Phone where) ] の 2 番目のドロップダウンリストから、次の基準の 1 つを選択します。

- ~が次の日付より前 (is before)
- 次の文字列と完全に一致する
- ~が次の日付より後
- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

**ステップ 3** [検索 (Find) ] をクリックします。  
検出された電話の一覧が表示されます。

**ステップ 4** [関連リンク (Related Links) ] ドロップダウンリストから [ファイルでの CAPF レポート (CAPF Report in File) ] を選択し、[移動 (Go) ] をクリックします。  
レポートがダウンロードされます。

---



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。